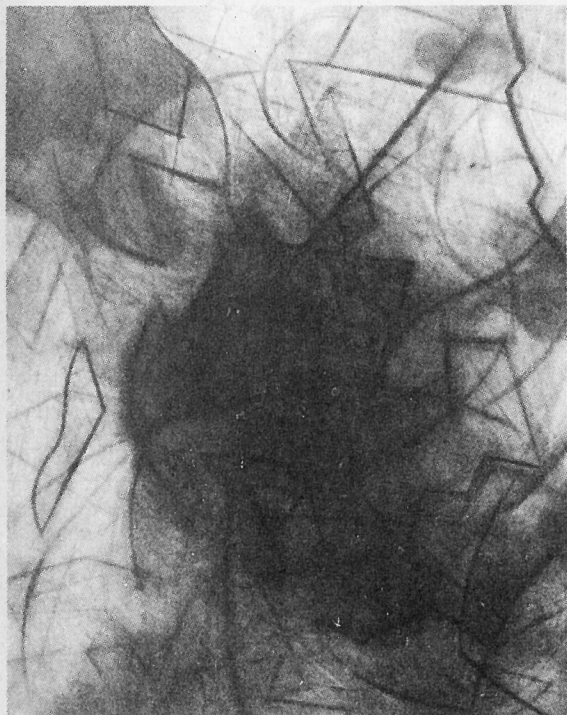


# 美術月評

4月

稲嶺成祚



知花 均作品

## 線を線として強調

## 知花均展

【知花均展】 木炭とパステルによる大作が並ぶ。「呼吸するような線、息づかいが伝わるような線による表現を「目指した」と作者はいう。木炭やパステルなど線材料のみによる表現は、そうした線が自在に引けるからであり、前に引いた線が痕跡として残って制作の全過程が集積され、透視できる意図にもよる。中央へのまとまりのある構成から、次第に周辺部分の強調される構成へと作品が変化し、線が閉じず、線を線として見せることが強調されていく。作品はパステルに少しゆるめに張り付けられたが、そのことについて作者は、イリニューションとしての画面と、色のついた布としてのオブジェ的あり方の両方を示したかったという。結果としてはどちらつかずになったように思う。